

再評価対象事業

水道水源開発等施設整備事業
椋川ダム

香川県広域水道企業団
高松ブロック統括センター 浄水課

水道水源開発等施設整備事業(栴川ダム)

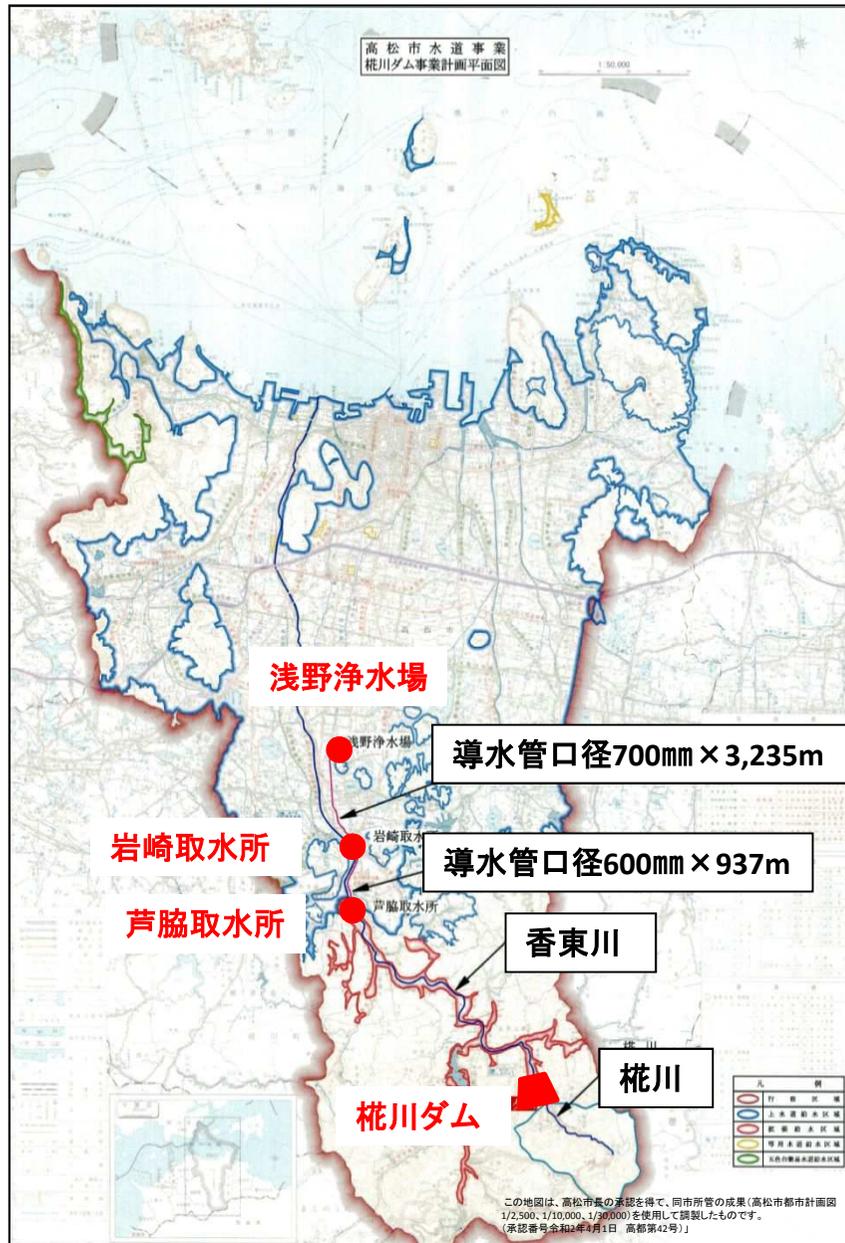


図-1 栴川ダム事業計画平面図

○目的
自己処理水源の拡充を図り、平常時はもとより
渇水時においても安定給水を確保する。

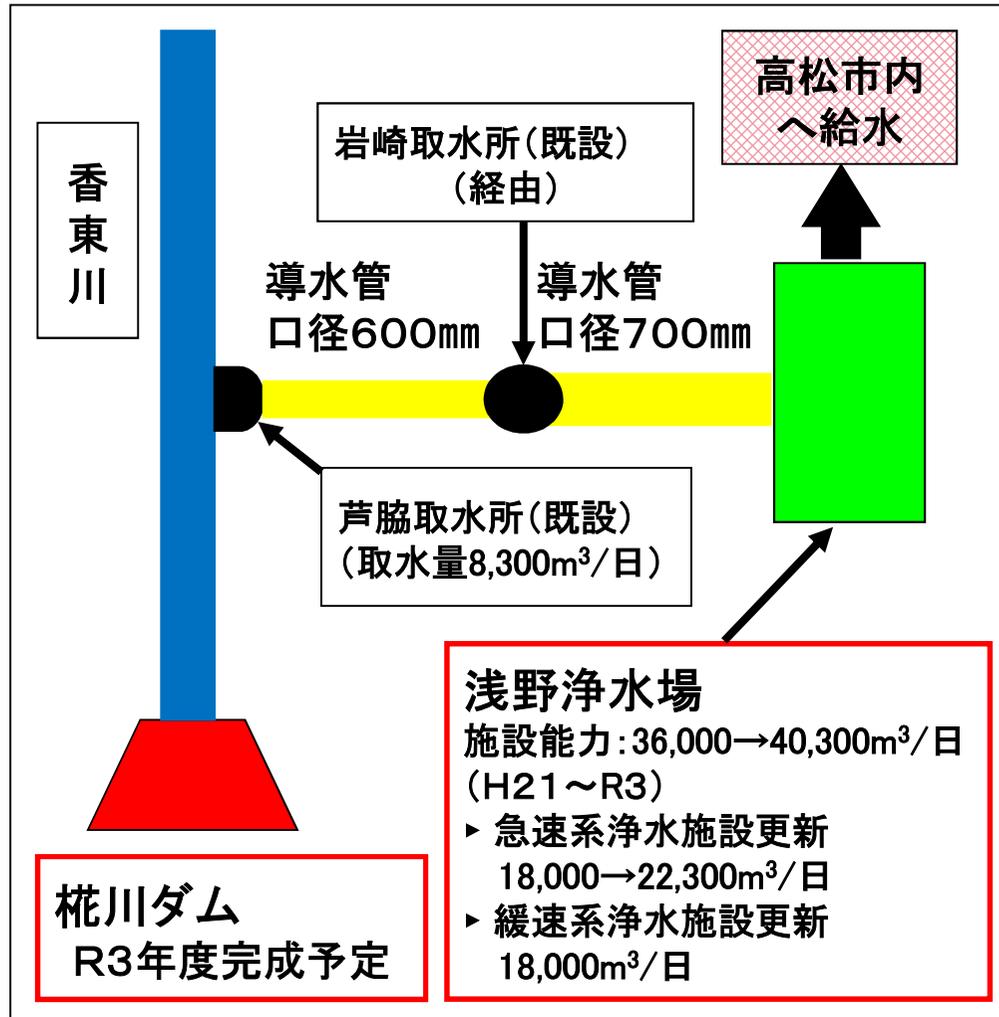
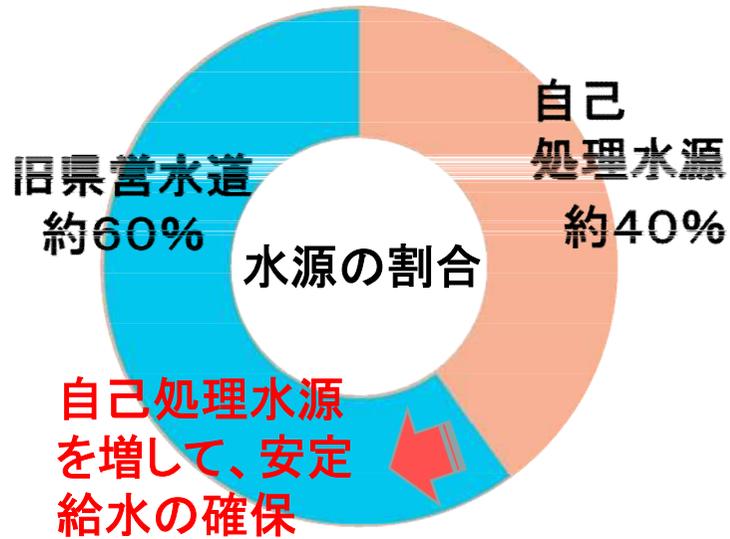


図-2 栴川ダム水運用フロー図(8,300m³/日)

自己処理水源の確保



今回の再評価の目的

○近年の社会情勢等の変化による事業費の見直しにより再評価を行う。

	総事業費	水道負担額
前回再評価事業費	460億円	74.1億円
今回変更事業費	463億円	74.5億円
増 額	3億円増	0.4億円増

全体事業費の増額

・ダム本体基礎地盤において、想定より地盤の透水性が高い範囲が広いことが判明したため、所要の止水性を確保するための基礎処理の数量増等に伴い、全体事業費が増額

対応方針(案)

1. 再評価の視点

- 本事業に関する事
- 河川総合開発事業 栂川ダムに関する事

①事業の必要性等に関する視点

1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 近年、気候変動による少雨影響を受け、香川用水の取水制限が頻発化している状況であることから、栂川ダム事業による新規水源の開発を行い、自己処理水源を安定的に確保することによって、渇水による給水への影響を最小限に止め、水道水の安定供給を図る必要がある。
- 前回事業費見直し（R1）以降、ダム本体基礎地盤において、想定より地盤の透水性が高い範囲が広いことが判明し、所要の止水性を確保するための基礎処理の数量増等に伴い、全体事業費が増となることから、水道負担額も増となる。

（R1：74.1億円→今回：74.5億円（+0.4億円増））

2) 事業の投資効果

- 費用便益比（B/C） 1.93（前回R1再評価時）

3) 事業の進捗状況

- 全体：令和元年度までの進捗率は全体事業費463億円に対し、事業費ベースで約87%に達している。

②事業進捗の見込みに関する視点

- 全ての用地取得を完了していることから、残る付替道路工事についても円滑に進捗できる見込みである。

③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- 本体建設工事や付替道路工事により発生する残土を周辺環境整備工事の造成盛土に流用するなど有効活用を図ることや、付替道路工事においてプレキャスト製品を積極的に採用することなどにより、総合的にコスト縮減を図る。

2. 対応方針(案)

以上のことから、**事業を継続する。**